

果実販売動向

販売課 田村 慎平



平素よりJA相馬村フルーツステーションをご利用いただき誠にありがとうございます。

8月の果実販売動向をお伝えいたします。

スイカに関しては、月の前半は東北産や長野産の出荷がピークを迎え、後半は出荷量は減少していったものの、各消費地が好天・高温のため月を通して引き合いが強く、高値基調での販売となりました。特に3L・2Lのカット売が引き合いが強く、月の半ばころには特に不足感が目立ちました。

メロンに関しては、東北・北海道産の販売が中心となったものの、総体数はあまり多くなく、お盆需要などで安定した引き合いが続く中、概ね保合から高値での堅調な販売となりました。ただし北海道産の青肉系は潤沢な出荷となり、そちらに関してはやや弱含みでの価格推移となりました。

桃に関しては、月の中ごろから他県産から本県産へと入荷がシフト

していきました。他県産が中心の時期では小玉の出荷量が多く、引き合いは弱く、価格は弱含みの展開となつていましたが、総体的な入荷量が減り本県産が中心になつてくると引き合いは強くなり、価格は上げ基調での展開となりました。リンゴに関しては、月の初めに長野県産シナノリップが出荷開始となり、前月より引き続き売場は縮小されているものの、在庫数量の少なさから高値基調の販売となりました。月の後半からは、サンつがるの出荷が始まりましたが、凍霜害の影響や、高温による着色不良などで近年稀にみるほど総体量が少なく、下位等級品の比率も高い出荷となりました。そのため上位等級品は引き合いが強く高値基調での推移となったものの、数の多い下位等級品は緩やかな荷動きとなりました。

今後の動き

今後末端の売場では、徐々にナ

シやブドウといった秋果実の面積が拡大傾向となつていきます。

スイカ・メロンに関しては、本県産を含め終盤に向かい、総体量の少ない状況が続く見通しから、価格については保合での推移が見込まれます。

桃については本県産の川中島が9月に出荷のピークを迎え、他県産の総体量が減少することから強い引き合いが予想されます。しかし入荷量が伸びない場合、売場の縮小が進むことも考えられます。

リンゴについては、サンつがるの出荷が9月中にピークを迎え、末端での売場拡大に伴い36・40玉を中心に引き合いが強い状況が予想されます。本年発生比率の高い色薄や下位等級品については下げ基調の推移が見込まれるものの、全体的な荷動きについては順調に推移するものと思われれます。

当JAでは、サンつがるの入庫が8月中は思つように進みませんでした。9月頭から徐々に入庫量が増えてきております。9月中旬には出荷のピークを迎える見通しですが、品質の維持を念頭に置きながら適時出荷を目指してまいります。

全農あおもりデータ（8/31 累計）

品 種	つがる	きおう	その他	合 計
単 価 (円)	4,377	3,407	3,328	3,419
前 年 比 (%)	124	100	117	104
販売数量 (箱)	1,504	12,005	14,272	27,781
前 年 比 (%)	14	77	72	56



●記録的猛暑の夏

本年は7月以降、青森県各地において観測史上1位の暑さを記録し、弘前市では39.3℃にまで達した日があった。例年であれば、8月下旬から「つがる」の収穫作業

が本格化してくるものの、夜温が20℃を下回る日が中々訪れなかったことから着色遅れが散見され、熟度先行で推移した。着色遅れ等を含め、温暖化対策が今後一層必

表1：管内の品種別りんご肥大状況（9月1日調査）

品種	横径（単位：ミリ）					
	湯口	紙漉沢	相馬	平均	昨年	平年
ふじ	79.9	78.6	79.3	79.3	79.1	75.5
王林	78.9	73.3	74.9	75.7	75.6	73.1
つがる	84.8	81.7	86.3	84.2	88.6	75.2

※平年値は過去10年間平均値

要となってくるのが考えられます。リンゴ販売においては鮮度も非常に重要なことから、果実の軟質化による品質低下には十分注意しましょう。

●リンゴの生育状況

管内におけるリンゴの肥大状況は、9月1日現在で「ふじ」が79.3ミリとなっており、昨年と比べて0.2ミリ大きく推移しています。夏場の降水量が少なかったことなどが影響し、肥大が鈍化したと考えられます。尚、昨年は大玉傾向にあり、平年値と比べても4.2ミリ大きいことから、肥大は順調に推移していることが伺えます。

●病害虫防除について

前段にもあるように、夏場の高温などの影響から、本年は9月以降もハダニ類には十分注意が必要です。また、黒星病・炭そ病の被害が見られた場合は、感染拡大防止の観点から見つけ次第摘み取り、土中に埋めるなどして適切に処分して下さい。また、園地によつ

ては褐斑病による落葉も見られています。被害葉を適正に処分し、来年に向けては防除薬剤も見直しましょう。

●除袋時の注意

除袋の際は、リンゴの日やけ果を出さないために次のような注意が必要です。

- ・二重袋では、まず外袋を剥ぎ、果実の色が黄色みがかった時、又は薄い縞が入った時（晴れた日が3～5日続いた後）に内袋を剥いで下さい。また、果実に密着している葉は、外袋を剥いだ時点で摘み取るようにしましょう。

●収穫時の注意

果実に発生する疫病は、降雨時の収穫等により、果実に泥が付着することが要因の一つとして挙げられます。これは冷蔵庫内や出荷先において発病することから、降雨時の収穫の際は泥が付着しないように十分注意しましょう。対策として、梯子等を使用する際は、手に泥が付かないように注意を払うほか、収穫力ゴの底にはネットを敷き、収穫力ゴは直接地面に置かないなどの工夫が必要です。

2023年 農作物防除記録の回収について

※共同防除（共防連加入）の場合は一部記入が不要です（りんごに限る）。

※共同防除の場合は、代表者、構成員で記入が異なります。注意して記入下さるようお願い致します。

10月上旬に、職員が今年度の「防除記録」の回収に伺います。また「誓約書」も併せて必ず提出くださるようお願い致します。

なお、「農作業記録簿」等については12月上旬に回収にいたします。